

## 式辞（卒業式）

桃源台のこの地に春の訪れを感じる今日の日、宝塚市長 中川 智子様、兵庫県議会議員 加茂 忍様をはじめ、多数のご来賓の方々、及び保護者の皆様方のご臨席を賜り、ここにかくも盛大に 川西高校第六十四回卒業証書授与式ならびに川西高校宝塚良元校第十四回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、誠に慶びに堪えないところでございます。

ただいま、卒業証書を授与いたしました 32 名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

卒業までの道のりは、決して平坦なものではなかったことと思います。人間関係で悩んだり、仕事との両立で疲れたりと苦勞が絶えなかったことでしょう。卒業までよくがんばったと思います。ここまでがんばれた自分に自信と誇りを持って下さい。そして、卒業まで皆さんを励ましてくださった家族、友人等周囲の方々に感謝の気持ちを伝えて下さい。

さて、今日限りで本校を巣立ち、新しい道を歩み始める卒業生の皆さんの門出に当たり、重ねてお願いしたいことがあります。

それは「命を大事にしてほしい」ということです。私が、皆さんと最初にお会いしたのは、今から約 3 年前、平成 24 年 4 月 9 日の一学期始業式でした。その式辞の中で、私は「皆さん一人一人自分の命を大事にするとともに、他の人の命も大事にしてほしい」とお願いをしました。私がそのような話をした背景には、自ら命を絶つようなことはやめてほしい、軽はずみな行動をして事件や事故に巻き込まれないでほしい、不節制な生活をして大きな病気にならないでほしいという思いがあったからです。命は永遠ではなく限りがあります。日々の奇跡の連続と言っているかもしれません。今、こうして皆さんが生きていることは決して当たり前のことではありません。限りある命だからこそ、大事にしてほしい。生きていることに感謝し、一日一日を一生懸命すごしてほしいのです。それが、私たち生きている者、生かされている者の義務でもあると思います。

卒業に至るまで皆さんも多くの先生との出会いがあったことでしょう。今から 45 年ほど前、私が小学校を卒業するとき、担任の先生が次のような話をしてくれました。今日は、今後社会に出ていく皆さんへのエールとしてその話を紹介します。

「働くとは、周りにいるはたの人をらくにしてあげること。そのつもりで毎日一生懸命働いて下さい。」

ご来賓の皆様には、ご多用のなか、ご臨席いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。本来ならば、卒業式並びに閉校式という形ではなく、卒業式は卒業式、閉校式は閉校式と分けるべきところではございますが、私どもの教職員数や控室等の関係で、このような形にさせていただきました。式が長時間にわたるうえ、駐車場も十分に確保ができず、高い所からではありますが、大変ご迷惑をおかけいたしましたことを心よりお詫び申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。私どもは、大切なお子様をお預かりし、生徒共々一丸となって努力して参りました。その期待に応え、卒業生の皆さんは、立派に成長してくれました。これも一重に保護者の皆様の、本校の教育に対する温かなご理解とご支援の賜物です。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

卒業生の皆さんの限りない発展と今後の御活躍をお祈りして、式辞といたします。

平成二十七年三月八日

兵庫県立川西高等学校・兵庫県立川西高等学校宝塚良元校  
校長 岡 克也